

# 便教會新聞

第166号

便教会は、教師の教師に上  
学ぶ会です。「方法論や技術  
くして実践あるのみ」の教  
ることを目的としています。

る教師のためのトイレ掃除に  
用や手法ではない、ただ身を低  
く育方針で、自らの人格を高め

便教会新聞發行責任者 高野修滋  
〒四四五一〇八〇二  
愛知県西尾市米津町天竺桂二七  
一/F ○五六三一五六一四三一七  
携帶 090-4215-1727

があり、リーダーの指示のもと、道具を手に持ち消極的な作業が始まりました。作業中は、リーダーから場所や汚れに応じて道具の変更や使い方のレクチャーがあり、受け身の作業でした。ところが参加者皆、汚れがきれいに落ちていくうちにポジティブシンキングに変わり、自ら考えて積極的に作業をするようになりました。これがトイレを磨き、心も磨くということかな。最終的には使うことがもつたいないくらいきれいなトイレになりました。活動中にふと思つたことがあります。トイレをきれいにするという目標に向けて、正しい手順で、適した道具で、正しい使い方で作業をして、活動中にふと思つたことではないと。数学の問題に対し、正しい一つずつ汚れを無くしていく。その先にトイレがきれいになるというゴールがある。このプロセスと成功体験は掃除に限ったことではないと。方針で、適した公式を利用し、ミスなく計算して、一つずつ出来るようにしていく。その先にテストで良い結果を得るというゴールがある。スポーツでも仕事でも全く同じことが言えると思います。行き当たりばったりでは成績も伸びず、試合で勝つことも出来ず、仕事で良い成果を得ることも出来ない。どんなことでも、正しいプロセスが大切だと改めて思いました。このように掃除を通じてたくさんのことを学びましたが、やはり一番忘れてはいけないことは、きれいでしてくれる人への感謝の気持ちだと思います。妻よ、いつも掃除してくれてありがとうございます。これからは私が掃除したいと思いつます。

人間的成長が強さにつながる 日本を美しくする会 相談役 鍵山秀三郎

前橋育英高校の荒井監督は考え方が立派ですね。生徒に「君たちがこの学校にいるのは3年しかないんだぞ。この3年間の間に役に立つことだけじゃなしに、その後の人生が長いから、卒業後に役に立つことをこの3年間に身につけていけ」と、そういう主旨で指導してきたと言うんです。人間として成長したかどうか、野球部の生徒たちがそれに一番の重点を置いたというんですね。そうしますと、一年生が入ってきて、二年生、三年生の姿を見て、今の二年生が一年生の時より良くなつて、また次の年も一年生が入つてくると年々良くなつてくる手応えがあつたと言うんですね。必ず甲子園で優勝するとまで言わなければ、せめて県大会で優勝して甲子園に出て、一回戦ぐらいは勝ちたいと願いを持つたらしいですけれど、昨年は決勝戦で最初に3点取られちゃつて、普通だつたらいきなり3点取られちゃつて、もうこれでダメだと思うところですよね。ところが、そう思わなかつたのはなぜか。それは生徒たちがみんな人間的に非常に成長してたから。だからあんな危機に遭つても、その後もピンチがありましたよね。それを乗り越えてきたのは技ではない、人間的な成長にあつたから。このように世の中の流れ、人がこうした方が楽だ、簡単だと思うことと反対のこと、違う方向に行くということは誠に至難なことでありますよね。

【編集後記】みなさん、「SDGs」を耳にされたことがあると思いますが、もし、子どもから「SDGs」って何と聞かれたら、皆さんはどう答えますか。答えは簡単、「鍵山掃除道」です。SDGsの読み方を変えましょう。Sは「掃除のS」、Dは「できるのD」、Gは「元気な子・人」。つまり、私が考えるSDGsとは、『掃除ができる元気な子・人』が育つ社会環境作りです。どんなに立派な目標を立てても、「達成の有無は人にあり」。環境が人を作り、人が環境を作るんです。自然、社会、経済、家庭環境と多岐に亘りますが、私たちの日常生活と深く関わっています。社会構成員である私たちがまともじやなかつたら、目標は絵空事になります。「人」となるためには、時を守り、場を清め、礼を正す。腰骨を立てる。履き物をそろえる。返事は「はい」。森信三先生の教えを繰り返し徹底することで「人」としての器ができ、教育勅語の12の徳目（孝行、友愛、夫婦の和、朋友の信、謙遜、博愛、修学習業、知能啓発、徳器成就、公益世務、遵法、義勇）を社会全体で育てていくことがSDGsの大根本（歐米諸国はこれには大反対でしょう……）になります。掃除をすればきれいになる、ものがきれいになれば大切に使う。ものを大切に使う人は人にも優しく、丁寧に接します。日本人精神の涵養が今ほど大切な時期はない感じます。掃除ができる元気な子・人を育てるために掃除仲間、便教会仲間の実践は大きいですよ。老若男女、動ける人は積極的に動きましょう。

『心を磨く』

海部郡大治町立大治中学校

二年 杉田 莉緒

あり、昨年より参加生徒の数が減少していく。した。友達も参加しておらず私も迷いましたが、あのときの達成感と輝きをもう一度味わいたい、と思い参加することを決意しました。前日には、前回の反省を活かし、

ピッカピッカになつたトイレを見たとき、  
私はそう思いました。はじめは心も、動か  
す手先も諦めかけていた汚れがきれいにな  
つて輝いている。しかも、私が掃除したん  
だ。そう思うと心がなんだか爽やかな気持  
ちになり、同時に言葉では表せない快感に  
包まれました。私が「掃除に学ぶ会」に参  
加させていただくのは二回目でした。昨年  
は、偶然もつたチラシが気になつて、せ  
つかくだからと友達を誘い、参加したので  
すが別々の班になり、しかも担当は男子ト  
イレで嫌だなあ、知らない人ばかりだし、  
止めておけば良かったと思つてしましたが、  
ボランティアの方、保護者の方、何よりも  
学年が上の先輩方が手を床につけて一所懸  
命掃除をする姿に圧倒され、一年生一人だ  
からつて負けないぞ、と真剣に教わりなが  
ら行つていく内にトイレ掃除の魅力にどん  
どん気づいていき、来年もやってみたいな  
あと思うようになります。そして迎えた今回、  
テスト期間中ということも

厚めのゴム手袋、長靴、水分をたくさん持つて学校へ向かいました。学校に着くと受付が始まつていて、「どうとう始まるのだな」と身が引き締まりました。受付後、消毒に似たクリームを手になじませました。これは手を菌からバリアしてくれるもので塗ると不思議と見えない何かに包まれたような感覚になります。お茶が一本支給されました。これが手を菌からバリアしてくれるので間がなくて、結局一口も飲むことができませんでした。開会式が始まり、代表の方からコロナ禍でトイレ掃除を学ぶ会で行うのは、日本でたつた二校だけということを教えていただき、その二校の内の二校に入っていることが少し誇らしく、頑張ろうと思いました。今年の担当は体育館女子トイレ。実際に使用しているトイレなので、どう変化していくのかワクワクしていました。私の班には私を含め二名の中学生、数名の保護者の方、リーダー、サブリーダーの方併せて十名の方がいました。もう一人の中学生は私のクラスメイトの女の子だったので安心しました。道具説明と基

本のそろぎんの絞り方を教えていたたきました。道具の中には、昨年使用したものに、こんな道具もあったかなあと使い方を忘れてしまっている道具もありました。ぞうきんの絞り方は右手を奥に左手を前にして赤ちゃんを抱えるように、内側へ絞るのが一番水分を出すことができるよ、と実際にお手本を見ながら教わりました。「では、始めましょう」の合図で始まりました。昨年の掃除に学ぶ会のお陰で、あまり目立った汚れはなく、すぐに終わりそうだなあと思いました。和式便器の洗い方としては大きく分けて三段階、スポンジで水を吸い取り、それから二種類の道具で汚れを取り除きます。簡単そうに見えてこの作業が一番私たちを苦しめました。一見汚れのないトイレでも、奥を見ると青いカビのようなものがありました。これがなかなか取れず、激悪臭と言つていいくほどの変な匂いがして、個室なので逃げ場はなく、ただひたすら手を動かし続けました。そんな中でも、隣の個室で掃除していたクラスメイトの女の子と励まし合つたり、保護者の方々が「すつぐくきれいになつたねえ！」と褒めてくださいつたので何とか無事、ピカピカにすることができ、リーダーの方に最終チェックをお願いすることになりました。「終わりました。お願ひします」と声をかけると、リ

令和3年、お世話になりました。佳い年をお迎えください。

2022年 掃除でつながる明日へ

ーダーの方は目を丸くしてこう仰ってくださいました。「凄い！よくこんなに頑張ったな、このトイレの水でうがいができるぞ。」この言葉を聞いたとき、頑張って良かった、諦めなくて良かったと思うことができました。その後も班の皆さんと協力し、壁のタイル拭き、床磨きなど様々な掃除を行いました。「人が見ていない部分こそ美しく」所懸命に汚れを磨いているうちに心まで磨かれていたのかもしれない、とその時気づきました。掃除をしてゴミを拾つただけ、あなたが良い運を拾うんだよ。」と代表の方が教えてくれた言葉を胸に、これからも掃除を続けていきたいと思います。

### 『明日の夢と希望につながる掃除』

海部郡大治町立大治中学校  
三年生保護者　八木　美香

に変えてくれたということは、掃除後に皆さんを見せていた晴れ晴れとした清々しい顔に滲み出していました。トイレという誰もが敬遠してやりたがらない場所の掃除をみんなで協力してピカピカにする。それは例えば、学校祭でみんなが力を合わせて優勝を勝ち取った時に匹敵するぐらい大きな価値と深い意味があることだと思いました。「よし、明日もがんばるぞ！」恩返しのつもりが逆に、大きなエネルギーをいたしました。こんな素敵な体験をこれからも是非、たくさんのお子さんたちにしてほしいと思います。有り難うございました。

### 『苦手意識の払拭』

海部郡大治町立大治中学校  
二年生保護者　鳥居　佐織

昨年度、初めて「掃除に学ぶ会」に参加させて頂き今回で二度目となります。この行事は、掃除が苦手な私のためにあるようで、本年度も引き続き参加させて頂くことにしました。今回はうれしいことがあります。班リーダーさんが班員に伝授してくれた。班リーダーさんが班員に伝授してくれた。班リーダーが「この絞り方が一番だよ！」と仰ったことがとてもうれしく、掃除上手だった祖母のことを思い出しながらトイレ掃除をスタートさせることができました。そ

して、これから我が子にも自信を持つて伝授していこうと思います。今回、私は便器を担当しませんでしたが、昨年のことを見出しながら様子を覗かせてもらいました。一緒に掃除をした中学生の女子はスタートからとても積極的でした。文句ひとつ言うことなく、尻込みすることもなく、一所懸命教わり、便器をピカピカにしていました。この子たちも喜んでトイレ掃除に参加したわけではないかもしれません。それでも折角の機会、積極的に何でも吸収する姿勢で向き合う彼女たちはとても素敵だと感じ、自分のすべき仕事にも気合いをもらいました。手洗い場、床、壁、扉など便器以外にも掃除場所は多くありました。お陰でどんどん綺麗になっていました。達成感を得始めた頃、サブリーダーの方が脚立に上り、蛍光灯を外しておられました。つい手元ばかりを見て掃除し、そのまま自分の視界の中だけ綺麗になつて満足してしまつていましたが、見上げればまだ大切なところが残っていました。その蛍光灯が綺麗になると、皆で綺麗にしたトイレがよくなり一層明るく綺麗に見え、何事も広い視野を持つていたいのだなと気づかせてもらいました。薄暗かつたトイレが徐々に明るく爽やかになつていていく過程で、同じように気持ちも明るく爽やかになつていくを感じ、心を綺麗にするというのはこういうことだと腑に落ちました。掃除が好きという人は、きっとこの感覚に気づいていて気持ちよく掃除するのだろうなと、少しだけ近づいたような気持ちになりました。また、子育て中の身としても、自分が苦手意識を持つてい

### 『学びがいっぱい、掃除に学ぶ会』

大治中学校　おやじの会

安井　健

私は四十六歳、高校一年生と小学六年生の子を持つおじさんです。日常生活で子どもたちに対し部屋の掃除をするよう言うことはあっても、私自身が掃除をすることは年には数回程度です。食器洗いや洗車は行うのですが、掃除に関しては素人です。掃除に学ぶ会の活動に参加するのは昨年に引き続き二回目です。きれいにする場所はトイレ。誰もがダーツでネガティブなイメージを持ち、私のような掃除の素人でなくとも少し抵抗がある、ハートルの高い場所だと思います。我々の班が担当した場所は、見た瞬間『これぞ便所、ザ・トイレ』という感じでした。ざつと水を流してブラシでこする、うわべだけのトイレ掃除ではダメだなど・・・。ネガティブなイメージが現実に、目の前に形として現れたのです。最初に道具の説明と注意事項の確認、担当分け

など思つたからです。トイレ掃除に対する抵抗感はありませんでした。便器担当になったときも嫌だなあとは思いませんでした。まず、「学ぶ会」の方の掃除の仕方、道具の使い方を一通り教えていただきながら、体育館トイレに入りました。初めて入るトイレはちょっと薄暗い雰囲気で、寒々しい感じでした。床に敷いてあるすのこを外すと、尋常ではない量のホコリと砂が現れました。他の便器担当の皆さんと一緒に、「学ぶ会」の方から便器掃除の具体的なやり方のレクチャを受け、早速個室に入つて取りかかりました。「さあ、ピカピカにするぞ！」私は意気込んで便器と向き合いました。まづ、便器の中の水を抜くことから始めます。大きめなスポンジに水を吸わせ、どんどん便器に溜まっている水を出していきます。すると、ドブ川のような臭いがしてきました。思わず吐き気をもよおす、あの不快な臭いです。その強烈な臭いはマスクをしていても、容赦なく鼻を攻撃してきます。心が折れそうになりました。鼻呼吸を止め、口呼吸に切り替えることで、折れかかった気持ちを元に戻しました。覚悟を決めれば、後は突き進むだけです。ゴム手袋をはめた手を使器に突っ込み、スポンジでゴシゴシと磨いていきます。難関は便器の縁の裏側です。尿石がこびりつきやすく、なかなか落ちない場所です。しかし、用意してくださいと磨いていました。ゴム手袋をはめた手を使器に突っ込み、スポンジでゴシゴシと磨いていきます。難関は便器の縁の裏側です。尿石がこびりつきやすく、なかなか落ちない場所です。しかし、用意してくださいと磨いていきました。この子たちも喜んでトイレ掃除に参加したわけではないかもしれません。それでも折角の機会、積極的に何でも吸収する姿勢で向き合う彼女たちはとても素敵だと感じ、自分のすべき仕事にも気合いをもらいました。手洗い場、床、壁、扉など便器以外にも掃除場所は多くありました。お陰でどんどん綺麗になつていきました。達成感を得始めた頃、サブリーダーの方が脚立に上り、蛍光灯を外しておられました。つい手元ばかりを見て掃除し、そのまま自分の視界の中だけ綺麗になつて満足してしまつていましたが、見上げればまだ大切なところが残っていました。その蛍光灯が綺麗になると、皆で綺麗にしたトイレがよくなり一層明るく綺麗に見え、何事も広い視野になつていていく過程で、同じように気持ちも明るく爽やかになつていくを感じ、心を綺麗にするというのはこういうことだと腑に落ちました。掃除が好きという人は、きっとこの感覚に気づいていて気持ちよく掃除するのだろうなと、少しだけ近づいたような気持ちになりました。また、子育て中の身としても、自分が苦手意識を持つてい

ツシユ)、カー用品店で購入できるとの貴重な情報を得ました。便器本体がきれいになつたら、次は水を流すレバーです。銀色であるはずのこのレバー、汚れがこびりついて白っぽく濁った色になつていました。「こういう汚れって、なかなか落ちないんだよなあ。」そう思いながら教えていただけではありません。それどころか、大きく砂埃が舞つて、トイレ内がさらに薄暗く曇りました。「さあ、ピカピカにするぞ！」私は意気込んで便器と向き合いました。まづ、便器の中の水を抜くことから始めます。便器の中の水を抜くことから始めます。便器に溜まっている水を出していきます。私は意気込んで便器と向き合いました。まづ、便器の中の水を抜くことから始めます。便器の中の水を抜くことから始めます。便器に溜まっている水を出していきます。私は意気込んで便器と向き合いました。まづ、便器の中の水を抜くことから始めます。便器の中の水を抜くことから始めます。便器に溜まっている水を出していきます。私は意気込んで便器と向き合いました。まづ、便器の中の水を抜くことから始めます。便器の中の水を抜くことから始めます。便器に溜まっている水を出していきました。その後、みんなと一緒に床を磨いたり、壁を拭いたりしてトイレ空間がまぶしいほどに明るく変わりました。掃除が終わつた後は、まるで大きなミッショソを成し遂げたかのような達成感に包まれ、一緒に掃除した皆さんと一緒に連帯感のようなものを感じました。他の便器を磨いていた中学生二人は、悪戦苦闘しながらも必死で頑張っていました。掃除後、この上もなく爽やかで晴れやかな笑顔になつていました。「小さなことが明日の夢や希望につながっていく。」指導してくれださつた「学ぶ会」の方が最後に仰っていた言葉です。「トイレ掃除」という小さなこと。でも、それが私たちの心を確実にしてくれました。薄い網のようこの道具(サンドメ